



# 近畿支部会報

2024年6月 支部長

並木道を歩いていると、まぶしい光が青葉のすき間から地面に差し込んでいます。無数の円い光を踏みながら歩きました。これを「太陽を踏む」と新聞に書いてありました。この言葉の表現はとて繊細だと思いました。気象キャスターの倉嶋厚さんが書いています。まさにその通りだと感じます。

因島に住んでいる義理の弟の家では、瀬戸内の太陽の光を利用して屋根の上でお湯を沸かしています。お風呂でそのお湯に入ると「太陽を浴びる」ように感じます。

まさに、「太陽の季節」がやってきました。



今回の会報は、次の内容でお届けします。

- 1. 例会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 京都市 [W.H](#)  
 Dear Kinki Servas Members・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ [H.A](#)  
 サーバス近畿支部の皆さんへ ([日本語訳](#))
- 2. トラベラー受け入れ報告  
 R.Gさんご一家を受け入れて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 奈良県橿原市 [N.K](#)  
 トラベラーまとめて報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 舞鶴市 [K.Y](#)  
 初めてお目にかかります・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 京都市 [H.T](#)  
 トラベラー二組を迎えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 久御山町 [A.K](#)  
 ようこそ我が家へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 京都市 [H.T](#)
- 3. お知らせとお願い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 支部長

## 1. 例会報告

京都市 W.H

5月12日(日) 15時から 参加者 H.Aさん M.Tさん H.Tさん M.Yさん O.Nさん N.Nさん K.Yさん A.T&Kさん W.Hの計10名でZOOMによる例会を行いました。

今回は2022年2月24日ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、全ての日常が奪われ日本に避難、そして、今に至るH.Aさんの心情を語ってもらうことにしました。日本語がおぼつかない為、英語で語っ

てくれました。私が理解できた範囲で述べますと、来日して welcome を感じたこと、英語教師の資格により高校の ALT の仕事も決まり、住まいも決まったこと、日本舞踊、三味線は難しいが毎日新しいことを学び幸せを感じると。

仕事では今年は卒業生、新入生を経験して感慨深い(?) ものがあった。生徒はチャームングで助けられていると。そして、ニューヨークの母、リビウの祖母と叔母のこと、私が見つかったことはこれくらいでした。英語の理解力の乏しさを痛感する結果となりました。

参加された皆さんはどれくらいおわかりになったのか? 取りあえず H.A に無理をお願いし、書面にしてもらいました。

日本に対する思い、日本人に対する思い、家族に対する思い、戦争に対する思い、これからの事等、知りたい事はまだまだあったのですが、又、いつか話を聞く機会を持てることを期待します。それまでに私の英語力もなんとか頑張りたいと思います。



## Dear Kinki Servas Members

H. A

Thank you so much for inviting me.

My name is H.A, I am an ALT at HR Senior High School and HY Senior high school. It has been 2 years since I have evacuated to Japan from Ukraine and I am deeply thankful for all the help and support that Japan has been giving to me and Ukrainian people, not only those who have evacuated, but also to those who are still in Ukraine. Our countries might be so far away from one another but our hearts are closer than ever.

Though I came to Japan two years ago, it doesn't feel like it. I still feel as if I arrived yesterday, with the vivid memories of my first days here still fresh in my mind. During these challenging times, immersing myself in Japanese culture has been a source of great comfort and resilience. Learning to play the shamisen and practicing traditional Japanese dance have been therapeutic, helping me navigate the emotional turmoil. The beauty and depth of Japanese culture are truly a wonder of the world, offering solace and a sense of connection. I am deeply grateful for these experiences and am committed to continuing my cultural journey here, embracing every opportunity to learn and grow until my last breath

The war in Ukraine has been raging for over two years, leaving a trail of unimaginable pain and loss. Countless people have been injured or killed, including innocent children. Russia's relentless attacks on hospitals, shopping centers, and public squares are nothing short of a genocide against the Ukrainian people. Residential areas are being bombarded, and lives are being shattered daily. My heart aches for my family who are still there, facing these horrors every day. Though I am safe here in Japan, my thoughts and prayers are with them every moment. The helplessness I feel is overwhelming, and I wish with all my heart that I could do something to save them.

This war is far from over. Right now, Russian forces are launching brutal assaults on Kharkiv, one of Ukraine's largest cities, known for its rich history and vibrant culture. Just recently, a nearby city Vovchansk was obliterated in a mere two days, leaving behind a landscape of ruins and despair. While some people managed to escape, many couldn't, and the fear they must be feeling is unimaginable. Every day, civilians are huddling in basements, schools, and makeshift shelters, hoping to survive the next wave of attacks. Humanitarian corridors are often targeted, making evacuation efforts perilous and further exacerbating the crisis

In the face of this darkness, I hold on to hope. Despite the devastation, the spirit of the Ukrainian people remains unbroken. Their resilience and courage inspire me and many others around the world. I pray fervently for an end to this nightmare, for Ukraine's victory, and for peace to return to my beautiful country. My deepest wish is for safety, healing, and a brighter future for all Ukrainians. May this senseless war end soon, and may Ukraine emerge stronger than ever.

I would also like to express my deepest gratitude to the Kinki Servas members, especially W.H-san and H.T-san, for the support and kindness they have shown me. To the entire Kinki Servas community, your collective warmth and generosity have made all the difference, and I am deeply appreciative of every one of You. Being alone in a faraway country can be incredibly daunting, but I have always felt supported and cared for by this wonderful community. Your assistance and compassion have been a beacon of light during these dark times, and I am truly thankful for that.

Thank you, Sincerely yours,

H. A

### サーバス近畿支部の皆さんへ（日本語訳）

近畿支部の例会に招いていただきありがとうございます。私の名前はH. Aで、HR高とHY高でALTをしています。ウクライナから日本に避難して2年が経ちました。避難している方だけでなく、ウクライナにいる方にも、日本が与えてくださっているすべての支援に深く感謝しています。避難している私たちとウクライナは遠く離れていますが、祖国にいる人たちと私たち避難している者の心は強く繋がっています。

日本に来て2年たちますが、そんな感じがしません。初めての頃の記憶が今も昨日のここのように、鮮明に残っています。日本文化大好きな私にとって、この困難な時期に日本文化に浸ることは大きな慰めと回復力の源となっています。日本に来て三味線と伝統的な日本舞踊を習っています。その練習をすることは、心の混乱を乗り越えるのにとっても役に立っています。日本文化の美しさと奥深さは、私にとって世界の驚異であり、慰めとつながりの感覚を与えてくれます。私はこれらの経験に深く感謝し、ここで文化の旅を続け、最後の一息まで学び、成長するあらゆる機会を逃さないように心がけています。ロシア、ウクライナの戦争は2年以上も続いており、想像を絶する痛みと喪失の痕跡を残しています。罪のない子どもたちを含め、数え切れないほどの人々が負傷したり殺されたりしています。病院、ショッピングセンター、公共広場に対するロシアの容赦ない攻撃は、ウクライナの人々に対するジェノサイドに他なりません。住宅地は爆撃され、生活は日々破壊されています。今も祖国にいて、毎日このよう

な恐怖に直面している家族のことを思うと、心が痛みます。私はここ日本で安全ですが、私の思いと祈りは一瞬一瞬彼らと共にあります。無力感に打ちひしがれ、彼らを救うために何かできたらと心から願っています。この戦争はまだ終わっていません。現在、ロシア軍は、豊かな歴史と活気に満ちた文化で知られるウクライナ最大の都市の1つであるハリコフに残忍な攻撃を仕掛けています。つい最近、近隣の都市ヴォフチャンスクがわずか2日で壊滅し、廃墟と絶望の風景が残されました。逃げ延びた人もいましたが、逃げられなかった人も多く、彼らを感じている恐怖は想像を絶するものです。毎日、民間人は地下室、学校、仮設のシェルターに身を寄せ合い、次の攻撃の波を生き延びようとしています。人道回廊はしばしば標的にされ、避難活動を危険にさらし、更なる危機をもたらしています。この暗闇を前にして、私は希望を握りしめています。しかし、この惨状にもかかわらず、ウクライナの人々の精神は壊れていません。彼らの勇気は、私や世界中の多くの人々を励ましています。この悪夢が終わり、ウクライナが勝利し、美しい祖国に平和が戻ることを心から祈ります。私の心からの願いは、すべてのウクライナ人の安全、癒し、そして明るい未来です。この無意味な戦争が早く終わり、ウクライナがかつてないほど強くなりますように。

近畿サーバスのメンバーの方々、特に W.H さんと H.T さんには、ご支援とご厚意を賜り、心より感謝申し上げます。近畿支部の皆さんの温かい気持ちと寛大さが大きく私を包んでいます。私はいつも皆さん一人一人に深く感謝しています。遠く離れた国で一人であることは信じられないほど大変なことです。私はいつもこの素晴らしいサーバスに支えられ、世話をされていると感じています。皆さんのご支援と思いやりは、この暗い時期に光の灯台となっており、心から感謝しています。

心からの信頼と感謝を込めて

H. A

## 2. トラベラー受け入れ報告

### R. G さんご一家を受け入れて

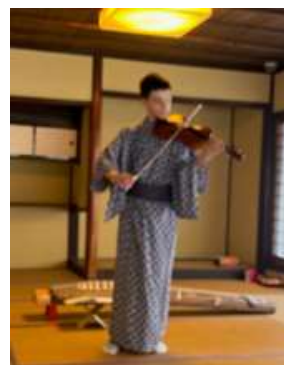
奈良県橿原市 N. K

フランスからの R. G さんご一家 (Ro さん Be さん Ti くん Me ちゃん) は、世界一周旅行を家族でされており、7月21日ホストさせていただきました。私自身が子育てに追われているので、母や、友人に手伝ってもらいながら行いました。

その日は奈良県橿原市にある、札の辻交流会館をお借りして、プチコンサートを行いました。家にあった浴衣をご家族にも着て頂き、気分をあげてもらいました。お琴を弾ける友人とバイオリンの友人にも来てもらい、お琴、バイオリン、私の歌の演奏を行いました。息子の Ti くんがバイオリンを弾ける方だったので、友人のバイオリンを借りて、Ti くんも演奏してくれました。また、娘の Me ちゃんも可愛いフランスのお歌を披露してくれました。

演奏会の後は、お茶会を開き、ティーセレモニーを楽しんで頂きました。

その後、RG さん一家は、ニュージーランドやメキシコ、世界中を回っていらっしゃるようで、今も連絡を下さいます。



皆で楽しい時間を過ごせたことに感謝しております。



### トラベラーまとめて報告

舞鶴市 K.Y

#### 初めての日本

9月4日～6日、Canadaのカルガリーから60才のご夫婦、S.TさんとDr.F.Mが来られました。日本は初めてのことで3人で天橋立へ。対岸まで渡る船の上で、かもめの餌として売られていたかつばえびせんを買って、皆でかもめにやりました。ご主人はかもめのえさやりをととても楽しんでいました。展望台で股のぞきを楽しんだ後、うどんを食べて、今度はボートで対岸まで戻り、しばらく散歩タイム。松林の浜辺に着くと、ご主人は裸足になりズボンが濡れるのもおかまいなしで、波と戯れ、続いて奥さんも波打ち際を子供のように走って、はしゃいでいました。



カルガリーには海がないので、海に来ることができてとても嬉しいとの事でした。その後、皆で温泉へ。温泉もとても喜ばれ、ご主人は「僕、とても楽しいんだけど、君たちは楽しくないのかい？」と私達女性陣に問いかけられました。

カナダのご夫婦に、カナダの雄大な自然を感じました。舞鶴には金沢方面から来られ、我が家の後は京都、高野山へ向かわれました。

#### 日本大好き

10月29日～31日オランダのアムステルダムからL.Lさんを受け入れました。

日本が大好きで1980年頃から、もう50回ほど日本に来られているとのこと。旅は常に一人で。城崎や天橋立にも以前来られたことがあるそうです。8人だかの多い兄弟の末っ子で独身、アムステルダムでは日本専門の旅行会社を一人



で経営されています。今回は日本海側を旅したかったそうで、舞鶴の後は鳥取県境港に妖怪の像を見に行くということでした。

到着されたその晩は、おでんと鶏肉のワイン煮込みを作りました。

独りでたくましく、旅をされる姿に、とても勇気をもらいました。

## フランスから



11月11日～13日フランスから D.M さん（78歳）を受け入れました。日本海側を旅されて、福井県のあわら温泉より舞鶴に来られました。日本は4回目だそうです、日本が本当に好きだそうです。

若い頃は助産婦をされていて、国境なき医師団の活動もされていたとか。とても活発で、いつでも笑っていられて、とてもやさしい方でした。

今は、Clermont Ferrand に、一人で住んでおられるそうです。

今回の旅で、大根としその種 そして、落し蓋を手に入れたと言われ、ホームセンターに行きました。大根の種は見つかったのですが、しその種は時期的にありませんでした。私の家で枯れていた青じそと赤じその種があることに母が気づき、それを D.M さんにあげました。落し蓋も無事買うことができました。フランスに帰ったら、フランスの梅と、日本の梅は違うらしい

のですが、梅干しを作ってみたいそうです。梅干しのレシピを母から聞いて書いてあげました。

フランス語を勉強している私としては、フランスの方と交流ができて、とても楽しいひと時でした。

## 初めてお目にかかります。

京都市 H.T

堺市の O.N さんより伊勢の I さんと一緒に我が家に来たいと Line が来ました。勿論 OK、1月18日と決まりました。I さんは伊勢にお住まい、「どんな方かなあ」と思っていたら、とても気さくな方でした。町中の他に、町から車で25分位ですが限界集落のような所にも家を持っていられて、民宿をされています。そのホームページの何と素敵なお事！勿論サーバス会員は無料です。

18日、近くの東福寺を見てから我が家に到着。I さんは観光客一杯の伊勢より静かなたたずまいの東福寺が良かったようです。夕食は先ず O.N さんご持参のワインで乾杯！ 無くなれば我が家の焼酎と



かでアルコールが進み、呑兵衛の夫は上機嫌。I さんがお知り合いの紙人形作家、安倍夫美子さんの本を下さいました。その見事な人形に見とれて、早速日本文化大好きの A ちゃんに Line で写真を送りました。「それ本当に紙で出来ているの？絶対見たい！」とのこと。W.H さんに車を出してもらって何時か伊勢に行こうと決まりました。

19日はあいにくの雨、朝食後、近くの光明院等東福寺の塔頭を見て帰られました。

## トラベラー二組を迎えて

久御山町 A.K

### B.SさんとBさん アメリカから 2/8～10

昨年、我が家に来てくれたPeさんの紹介で、SaさんとBeさんが2月8日に来てくれました。東京で数日過ごした時は、とても寒く雪が降っていたそうです。Saさんは31才で人道政策に携わっていて、ケニア、ソマリア、バングラデシュに住み、人道支援に取り組んで来られました。Beさんは36才で、アマゾンの財務部門で働いているそうです。ワシントンDC在住。二人ともアウトドア、読書、料理が大好きで、昨年の秋に結婚して、Beさんと一緒に日本を旅行するのを楽しみにしていたそうです。



9日は、宇治散策に出かけました。夜は、私のお友達を誘ってのディナーをしました。フルーツとお茶を買って来てくれました。私たちは、二人の出会いを聞きました。いくつかの質問に答えて、マッチングアプリを使って相手を探すそうです。アメリカでは一般的だと言っていました。一緒にたこ焼きを作りしました。おにぎりの開け方を教えました。デザートのみたらし団子を食べながら、Saさんの仕事の話の話を聞きました。政府の仕事を詳しく説明してもらいました。

10日は、近鉄大久保駅まで送って行きました。

### P.HさんとI.Vさん ドイツから 2/19～21



Inさんは69才とPeさんは75才、台湾からリクエストが届きました。2月5日に福岡・広島・神戸とJRパスを使って移動していました。サーバスの会員との交流を楽しみにしていますとのメールをもらいました。我が家に着いたときは、とても身軽だったので理由を聞くと、大きい荷物は駅のロッカーに預けてきたそうです。21日9時に京都駅から新幹線に乗るため荷物を置いてきたそうです。夕食後、明日の予定を聞くと何もないのよという事だったので、京都近代美術館を進めました。インター

ネットで調べてみると、行きたいと言ってきて、出かけました。

20日は、Inさんがアートに興味があると聞いたので、京都国立近代美術館を紹介しました。夜は、私たちの参加している英会話サークルにゲストスピーカーで参加してくれました。自己紹介とドイツについて話をしてくれました。自然環境とエネルギーの話をしてくれました。日本は、交通がとても便利であり、食事がおいしくて、ごみが少なく、トイレがきれいであるのが印象的だと話をしてくれました。

21日は、朝食は飲み物だけですませて、JR新田に送って行きました。

## ようこそ我が家へ

京都市 H.T

アルゼンチンの An さんの紹介で 3 月 21 日～23 日、69 歳で退職したばかりの病院の医師 R.S さんと、友人で 55 歳のポーランド出身、スウェーデンでアルツハイマー専門の看護師をしてられる J.R さんが来られました。日本には認知症専門の看護師はいるがアルツハイマー専門の看護師はいないので興味津々でした。

21 日、近くの方もアルツハイマーの知人がいるとのことで夕食を共にしました。スウェーデンでは王の親がアルツハイマーなのでアルツハイマーのことがとても研究されているとのこと、それで Ja さんもスウェーデンで仕事をされています。治療のことを聞いた後、スウェーデンが NATO に加盟したことなどを話す内にウクライナの事が話題になって、ウクライナから日本に避難している A ちゃんに電話しました。A ちゃんと Ja さんは多分ポーランド語かなにかで話されていて、盛り上がっているようなので、次の日は A



ちゃん、W.H さんと一緒に夕食という事になりました。

22 日、お二人はアンティノールのチョコレートケーキとワインを買ってきて下さり、アンティノールのケーキが大好きな私たちは大喜び、A ちゃんと Ja さんはまた話して盛り上がり、W.H さんは素敵な男性二人と写真に収まりご機嫌で、良い一時が持てました。

23 日、お二人は我が家近くの伏見稲荷大社と東福寺を見て、次の所に旅立たれました。

### 3. お知らせとお願い

支部長

- \* 2024 年度サーバス年会費未納の会員のみなさまは振り込みをよろしくお願ひします。
- \* 住所、電話、メールアドレス等変更がありましたら支部長までお知らせください。

...